



Q

暑さや大雨を何とかしてほしいと  
思っているのは私だけなのかな？

A

気候変動への対策を望んでいる人は  
世界中に89%もおるんじゃ



博士

### さかなクンのメッセージ (抜粋)

お魚にとりましては、  
水の温度が1℃でも変わりますと  
私たちにっては  
気温が10℃くらい変わる、  
大きな変化ともいわれております。  
これ以上、  
環境の変化が起こらないように  
私たちの思いや、できることで  
食い止めていきたいで  
ギョーさいますね！

わたしも、気温上昇を  
止めたい **89%**の一人です。

さかなクン (魚屋子雲)



いますぐ動く。気温上昇を止めよう。

1.5℃の約束

国連広報センターでは、「気温上昇を止めたい」と願う著名人などからメッセージを集め、公開しています。ここでは、さかなクンのメッセージを抜粋して紹介する。メッセージは同センターの各種SNS公式アカウントを通じて、順次掲載される。右の2次元コードから閲覧可能



### 2050年の天気予報 (Ver.2)

最新の科学に基づいた2050年8月の天気を予測する動画「2050年の天気予報 (Ver.2)」が、先月3日に公開された。製作委員会は日本気候リーダーズ・パートナーシップ (JCLP) などで構成され、国連広報センターや東京大学などが協力した。

このままのペースで二酸化炭素を排出し続けた場合、2050年8月に起こりうる気象の姿を天気予報として紹介。気象予報士の井田寛子氏と東京大学未来ビジョン研究センターの江守正孝教授が解説している。

14年9月、WMO (世界気象機関) が実施した「2050年の天気予報」キャンペーンの一環として、「2050年の天気予報」日本版をNHKが制作。しかし、当



©「2050年の天気予報」製作委員会

時の想定を上回るスピードで気温の上昇等が進んでいる。

そこで、気候危機の加速の実態に合わせ、最新の科学に基づいたリニューアル版を制作することに。今回の動画では、熱波・食料予報・台風情報に關して、「熱波と水不足による米の不作」「スーパー台風の陸上」など、実際にどのような被害がもたらされてしまうのか、具体的な事例を予測しながら、丁寧に解説している。



「2050年の天気予報」は、このように、自分たちの行動を促すことが重要です。また一人一人が具体的な行動を起すべく、地域社会の好事例を発信し、「あなたでもできる」と背中を押すことも、メディアの役割ではないでしょうか。

「SDGs×SEIKYO」の事例編「ちーちゃんと訪ねるミライの現場」。今回は特別編として、国連広報センターが実施している「1.5℃の約束」キャンペーンと、同センターも制作に協力した「2050年の天気予報 (Ver.2)」について紹介します。国連広報センターは同キャンペーンを、2022年に「SDGメディア・コンパクト」加盟メディアと共にスタートしました。



有名芸能人やスポーツ選手の人たちが、「89%」って話している動画があるって、母さんから聞いたよ。博士、これ何か知ってるか？

ちーちゃん、それはきっと「わたしも、気温上昇を止めたい89%の人です。」プロジェクトの動画じゃないかな。

「気温上昇」ってのは、夏がこんなに暑くなるっていうことにも関係があるの？ 何とかなってほしい……。

このプロジェクトでは、「気候変動への対策を進めてほしい」と願う人々の声を見える化しようとしています。

国連広報センターでは、国連と連携してSDGs達成を目指す「SDGメディア・コンパクト」に加わるメディア各社と共に、2022年から「1.5℃の約束」の目標を掲げ、気温上昇を抑えるための「キャンペーン」を実施してきた。

「1.5℃」は、15年にパリで開かれたCOP21 (第21回国連気候変動枠組条約締結国会議) で採択された「パリ協定」で掲げられた目標。世界の平均気温の上昇を、石炭や石油といった化石燃料を大量使用するようになった産業革命の前と比べ、1.5度以下に抑えることを目指している。

1.5度以下に抑えられなければ、異常気象の発生頻度が高くなり、地球環境が一歩戻りできない状況に陥ると指摘されている。

今年の8月は、世界平均気温が観測史上最も高い月となり、平均海面水温も過去最高を記録。本年1月、最高気温が40度

以上となる日を表す新たな名称として「酷暑日」が導入された日本でも、7月21日から25日の間に、観測史上最长となる5日連続の酷暑日が記録された。

また、猛吹降水平静に続く猛烈な雨がもたらす豪雨害も、各地で多発するようになっている。

ヨーロッパでは、記録的な熱波や大規模な山火事が発生。ネパールの崩落による大規模な土砂崩れ、中国の国境沿いの水害、地球温暖化の影響が指摘されている。こうした世界各地の異常気象を受け、国連は「気候危機は加速している」と警鐘を鳴らしている。

「1.5℃の約束」キャンペーンは、メディアを通して、1.5度目標の重要性を伝え、具体的なアクションを提示してきた。

5年目となる本年は、6月から「わたしも、気温上昇を止めたい89%の人です。」

プロジェクトを始動。世界の89%に「わたしも、気温変動対策の輪を望んでいる」という調査結果もとに、各界の著名人やさまざまな人の声を「見える化する取り組みを推進している。

具体的には、同キャンペーンに賛同する人から寄せられたメッセージを国連広報センターのSNS公式アカウントを通じて発信。また、「SDGメディア・コンパクト」の加盟各社も、それを活用した企画をそれぞれの中で発信するなど、啓発活動に力を入れている (公開されたメッセージの一部を別掲で紹介)。

同センターの根本かおる所長は、気候変動に関する市民の声について、次のように語った。

「『気温上昇を止めたい』という自分の意見を止める、という人が多く感じます。ですから本プロジェクトで、各所で活躍する著名人をはじめ、さまざまな方々の声をメッセージ

## 一人一人の声を社会全体の声に

著名人などのメッセージを広く発信

ジという形で可視化することにより、声なき声を、社会全体の声にしたいと願っています。

聖教新聞社も今年から「SDGメディア・コンパクト」に加盟。これまで、SDGsの各テーマに関する企画やインタビューの継続的な発信、「1.5℃の約束」キャンペーンへの参加などを通して、意欲的に取り組んでいます。

根本所長はメディアへの期待をこう述べる。

「大切なことは、『気候変動の根本原因は何かを、一人一人が考え、対策を行動に移していくこと』だと感じます。その声が、政治を突き動かす原動力になります。

だからこそ、人々が感じる危機感を、メディアが政治の場へ届けることが重要です。また一人一人が具体的な行動を起すべく、地域社会の好事例を発信し、「あなたでもできる」と背中を押すことも、メディアの役割ではないでしょうか。



聖教公式LINEで  
感想やご意見を募集します

この取り組みに関わる  
SDGsの主な目標



聖教電子版の「SDGs」  
特集ページが閲覧できます。